

令和7年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中中央小学校	対象となる主な学年	全学年
取組事例名	「はちのこの心得～話し合い活動を通して～」		

◆ 児童の実態及び取組を通して育てたい児童像	
児童の実態	取組を通して育てたい児童像
<ul style="list-style-type: none"> <li>合意形成を図る話し合い活動を行う中で、学級づくりの基盤である支持的風土が形成されている。</li> <li>すべきことは着実にこなすが、自分達が本当に挑戦したいことを追求したり、議論したりすることを敬遠することがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の学校生活を、「よりよくしていこう」と自らできることを考え、行動しようとする児童</li> </ul>



◆ 取組の具体的内容

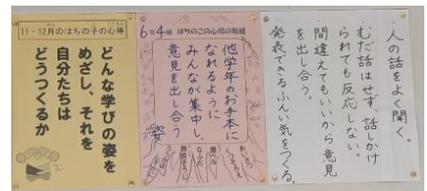
取組を実施する意図及びねらい
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育目標「自ら伸びる」の実現に向け、日々の学校教育活動における目標を設定し、教師と児童が共に目標達成に向けて取り組む態度をもつ。</li> <li>児童が自ら目標達成に向けた行動を考え、話し合うことを通して、目標達成に向けての意欲を高める。</li> </ul>

取組の流れ・創意工夫・児童の変容等

<table border="1"> <tr> <td>学校教育目標 「自ら伸びる」</td> <td rowspan="2">学級経営・ 学級目標</td> </tr> <tr> <td>学年経営</td> </tr> </table>	学校教育目標 「自ら伸びる」	学級経営・ 学級目標	学年経営	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">期間重点教育目標「はちの子の心得」</th> </tr> <tr> <td>4・5月</td> <td>どんな学級をめざし、それを自分たちはどう創るか？</td> </tr> <tr> <td>6・7月</td> <td>どんな授業をめざし、それを自分たちはどう創るか？</td> </tr> <tr> <td>9・10月</td> <td>どんな学年をめざし、それを自分たちはどう創るか？</td> </tr> <tr> <td>11・12月</td> <td>どんな学びの姿をめざし、それを自分たちはどう創るか？</td> </tr> <tr> <td>1・2・3月</td> <td>次の年にはどんな学級・学年をめざし、それを自分たちはどう創るか？</td> </tr> </table>	期間重点教育目標「はちの子の心得」		4・5月	どんな学級をめざし、それを自分たちはどう創るか？	6・7月	どんな授業をめざし、それを自分たちはどう創るか？	9・10月	どんな学年をめざし、それを自分たちはどう創るか？	11・12月	どんな学びの姿をめざし、それを自分たちはどう創るか？	1・2・3月	次の年にはどんな学級・学年をめざし、それを自分たちはどう創るか？
学校教育目標 「自ら伸びる」	学級経営・ 学級目標															
学年経営																
期間重点教育目標「はちの子の心得」																
4・5月	どんな学級をめざし、それを自分たちはどう創るか？															
6・7月	どんな授業をめざし、それを自分たちはどう創るか？															
9・10月	どんな学年をめざし、それを自分たちはどう創るか？															
11・12月	どんな学びの姿をめざし、それを自分たちはどう創るか？															
1・2・3月	次の年にはどんな学級・学年をめざし、それを自分たちはどう創るか？															

<事前の指導・導入>

- 自分たちの生活をどのように創っていくのか、各学級で話し合いを組んだ。児童は自分達の学級集団をよくするためには何をどのように取り組むのか、各学級の実態に応じて具体的に考える。  
【自己決定の場の提供】



<取組>

- 各学級で日々取り組む。さらに、毎日ふりかえりを行う。
- 心得を意識した行動をとろうとしている児童がいることで、児童の気持ちに変容したことで学級目標そのものを問い直す活動を行った学級もある。【安全・安心な風土の醸成】

<事後の指導>

- 記述によるふりかえりを行い、交流する。記述の中に児童の具体が現れるよう、場面を想起させた。本校行事のはちのこ祭りでは、「みんなと楽しむ力」「協力する力」がついたという記述が見られた。
- 運動会や学習発表会では、司会進行を「自分達が行いたい。」と申し出て、児童主体の行事を成功させた。  
【安全・安心な風土の醸成】



◆ 成果(○)と課題及び今後に向けて(●)

- 「はちのこの心得」を通して、児童と教師が同じ目標に向かって生活を創っていくことができた。
- 「どんな○○をめざし、それを自分たちはどう創るか」を考え行動していく過程で、児童自らが挑戦したいことを見つけ、実現に向けて行動し成功させることができた。
- 毎日のふりかえりの仕方が形骸化している様子が見られるため、各学級でどのようにふりかえりを行っているのかを交流し、「何のために」を問い直す場を増やしていく。